B07 四国で初めて確認されたタテツツガムシ、その疫学的意義

○高田伸弘（福井医大）・熊沢秀雄（高知医大）・藤田博己（大原研究所）・
千屋誠造（高知県衛研）・馬原文彦（馬原医院）

New record of *Leptotrombidium scutellare* and the epidemiological
significance in Shikoku District

Takada N., Kumazawa H., Fujita H., Chiya S. and Mahara F.

四国のツツガムシ調査は40余年前に盛んで、またこの10余年間も随時行なわれて来たが、タテツツガムシ *Leptotrombidium scutellare*（以下タテ）の報告はなかった。演者らは、中国地方でのタテ確認を契機に、四国においても、本種の河川系分布を推測して調査を進めた。1998年11月および1999年11～12月に、四国東半部の香川・徳島・高知県下で見取り法とツルグレン法を併用した結果、秋にツツガムシ病発生のある高知県大豊町地区（吉野川中～上流域）でタテを得た。これは四国における初確認となる。同地区の患者血清抗体もKawasaki型でタテによる媒介が裏付けられた。従来、四国の媒介種としてトサヤフトゲが知られるが、患者発生季節がそれらに適合しない例が多々あり、それはタテによる媒介であったことが強く示唆される。

B08 台湾（台中・金門島）の野鼠より得られたツツガムシ

角坂 照貴（愛知医大・寄生虫）・増澤 俊幸（静岡県大・薬学部）・Ming-Jeng Pan (Nationa
Taiwan Univ.)・柳原 保武（フィリピン大）

Trombiculid mites from rodents in Taichung and Kinmen Island, Taiwan

Kadosaka T., Masuzawa T., Ming-Jeng Pan and Yanagihara Y.

1999年3月に台中と金門島で行われた台湾のライム病媒介動物調査の際に捕獲した野鼠から6種のツツガムシ幼虫を採集した。金門島ではつつが虫病患者の発生も知られ、*Rattus losea*, *Rattus* sp. から4株の *Orientia tsutsugamushi* も分離した。 [科研費：国際学術研究 10041204 の補助を得た]

1. *Walchia pacifica* - group, *Rattus losea*, *Bandicota indica*, 台中（沙鹿鎮）
2. *Walchia chinensis* - group, *Rattus* sp., 金門島
3. *Leptotrombidium scutellare*, *Rattus losea*, *Rattus* sp., 金門島
4. *Leptotrombidium yui*, *Rattus* sp., 金門島
5. *Leptotrombidium deliense*, *Rattus losea*, 金門島
6. *Leptotrombidium pallidum* - subgroup, *Rattus losea*, 金門島